

令和6年度 旧八幡浜管内生徒指導夏季研修会 実施報告書

1 日 時 令和6年7月31日(水) 9:30~11:30

2 場 所 愛媛県歴史文化博物館(多目的ホール)

3 講演内容

- ・ 演 題 「多様な性の在り方と人権に関する学習を行って」
- ・ 講 師 西条市立西条西中学校教諭 神野 雅彦 氏

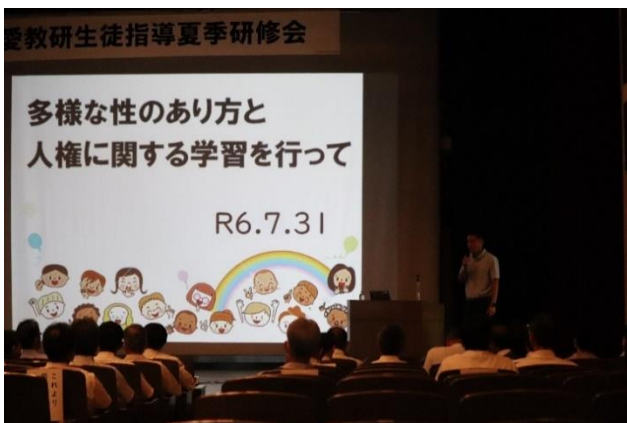
(1) マイノリティについて

ア レインボープライド愛媛の協力のもと、当事者の方の話を聞いた。

イ 生徒指導と特別支援教育、人権・同和教育は三位一体である。また、人権・同和教育と学力向上は両輪の関係である。

ウ 中学生にマイノリティとは何かについて理解する学習を行い、マイノリティについて知ることは特別なことではないことに気付かせた。

エ アンケート結果から、当事者である子供の悩みに保護者は気付いていないという実態が分かった。



<写真1 マイノリティの捉え方>



<写真2 生徒指導の果たす役割について>

(2) 性的マイノリティの基礎知識

ア 「男らしく」「女らしく」から「私らしく」へ。

イ 2022年から「性同一性障害」は「性別違和」に表現が変わった。

ウ トランスジェンダーの方にとって世の中は男女に区別されるものが多過ぎて困っている。

エ 当事者の子供は、自分自身のことを言える子もいるが、言えない子もいる。

(3) LGBTQに関するクイズ

ア クイズを通して理解を深めた。

イ カミングアウトするかどうかは人の事情それぞれである。

ウ 学習をすることで当事者探しをするような雰囲気は作らせないようにしなければならない。

エ 「好きのハテナが分かる本」から理解を深めるクイズを行った。

オ 義務教育で学ぶ重要性について学んだ。

(4) 事例研究 みんなで考えよう

- ア トランスジェンダーの生徒に私達ができることは何か。
- イ 「同性を好きになったので告白しようと思う。」と生徒から相談されたらどうするか。
- ウ 制服改正の話が出たときに共通理解しておかなければいけないことは何かあるか。

(5) 冊子の紹介（性的マイノリティを理解するための冊子）

- 性の多様性に関する手引き（愛媛県県民環境部県民生活局人権対策課）
- みんなちがっていいんだよね（愛媛県）
- 教職員のためのセクシュアルマイノリティサポートブック（奈良県）
- 性はグラデーション（大阪府）

(6) 私達にできること

- ア 当事者を全面に出すと、自分のこととして考えなくなってしまう。
- イ 教師の配慮の足りない言葉が子供を苦しめる。
- ウ 男女区分の再点検を。
- エ 違いを認め合い、一人一人を大切にする学級づくりを。
- オ 教師が理解者の一人になること。
- カ 教師の変容が鍵である。
- キ アウティングにならないよう、細心の注意を。

(7) 謝辞

- 自分自身を振り返ってみて、多様な性を特別な事として捉えないことの大切さに改めて気付いた。自分自身でハードルを上げてしまっていた。
- 考え方はいくらでも変えられるが、ハード面では変えられないものもある。しかし、工夫次第でできることもある。
- 「少数派＝特別」と思い込んでしまっていた。今日の学びを各校に生かしてほしい。

(8) 参加者の感想

- 児童生徒と信頼関係を築き、理解に努めること、そして適切な対応や支援を行うことは何事に関しても重要なことである。本日の講演を通して、児童生徒が抱える様々な悩みに気づき、多様な性の在り方についてもきちんと理解し、児童生徒に寄り添った対応ができるようにしたいと感じた。
- 具体的な事例やクイズ、演習などを交えていただき、分かりやすく有意義な研修でした。LGBTQについての理解が深まりました。
- 正直、LGBTQについての知識はあまりありませんでした。今回の研修会でいろいろなことを知ることができました。いざ、そのような子供たちと接する時に今回の研修を思い出しながら、子供たちに寄り添っていきたいです。また、多様な性について特別なものと考えず、自分の意識のもち方も変えていけたらと思います。
- 性的マイノリティを特別なものとして捉えるのではなく、性の多様性として教員も児童生徒も理解し合える環境づくりが大切だと感じた。そういった場面に出会った時、どのように対応していくか今後も勉強し、イメージがもてるようにしたい。